

教育委員会第12回定例会議 会議録

1 日 時 平成23年12月21日(水)
開会 13時30分
閉会 14時45分

2 会 場 金沢市本庁舎 4階401会議室

3 出席委員(6名)

教育委員長	佐藤秀紀
教育委員	前川信政
〃	柳下道子
〃	米井裕一
〃	岡能久
〃	早川芳子

4 欠席委員(1名)

教育委員(教育長) 浅香久美子

事務局	教育次長(兼)学校職員課長	上林雅彦
	学校教育部長	平嶋正実
	(兼)市立工業高等学校教育改革推進室長	
	教育総務課長	浦世史宏
	教育総務課担当課長(兼)課長補佐	高村政博
	教育委員会担当部長(兼)学校指導課長	野村豊
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	山田裕
	教育委員会担当部長(兼)市立工業高等学校事務局長	奥村敏郎
	生涯学習部長(兼)生涯学習課長	縄寛敏
	教育委員会担当部長	森田勝
	(兼)図書館総務課長	
	(兼)玉川図書館長	
	泉野図書館副館長	廣田康太郎
	玉川こども図書館副館長	村田健
	金沢海みらい図書館長	石蔵茂幸
	教育プラザ富樫総括施設長	越田理恵
	(兼)地域教育センター所長	
	研修相談センター所長	山下美奈子
	歴史建造物整備課長	野島宏英
	都市政策部担当部長(兼)文化財保護課長	出越茂和
	市民スポーツ課長	尾崎敬志

5 案 件

議案第35号 金沢市指定文化財の指定について (文化財保護課)
議案第36号 金沢市卯辰山麓伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について (歴史建造物整備課)

- 非 議案第 37 号 金沢市文化財保護審議会の諮問について (文化財保護課)
 非 議案第 38 号 金沢市スポーツ推進審議会委員の委嘱について (市民スポーツ課)
 報告第 21 号 平成 23 年度学力・学習状況調査の結果概要について (学校指導課)
 報告第 22 号 金沢市立中学校「金沢スタンダード・ベーシックカリキュラム」
 について (学校指導課)

そ の 他

- (1) 中学生会議について
 (2) 平成 23 年度金沢市小中学校合同展について
 (3) 平成 23 年度金沢市立工業高等学校卒業予定者の進路状況について
 (4) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

佐藤委員長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として米井委員を指名した。本日の議題について佐藤委員長が議案第 37 号、議案第 38 号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第 35 号、議案第 36 号、報告第 21 号、報告第 22 号、その他(1)(2)(3)について資料に基づき説明があり、質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、1月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。その後、議案第 37 号、議案第 38 号について非公開で審議に入り、原案どおり可決し、閉会した。

* 1月の定例会議の日程：平成 24 年 1 月 18 日(水) 13:30 ~

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

議案第 35 号 金沢市指定文化財の指定について(文化財保護課)

(説明の概要) 11 月 30 日開催の文化財保護審議会において「中屋サワ遺跡出土遺物一括」について、指定の答申があった。

金沢市中屋サワ遺跡出土品は、種別は有形文化財考古資料、名称「中屋サワ遺跡出土遺物一括」、所在地は金沢市埋蔵文化センター、所有者は金沢市、数量 644 点、時代は縄文時代後・晩期。

今回指定対象となる出土品は、土器・土製品 375 点、石製品 214 点、骨角器 3 点、木製品 20 点、漆塗製品 32 点(合計 644 点)。土器は深鉢、蓋などがあり、全体を復元できたものが多く、磨消縄文と呼ばれる文様の多用や斜光器土偶など、東北地方との密接な交流がうかがえる。玉類では新潟県糸魚川流域を産地とするヒスイ製の丸玉と勾玉、石冠などの呪術・儀礼要具もある。骨角器では縫針などが出土している。

遺跡の大きな特徴としては、豊富な木製品や漆塗製品である。中でも籃胎漆器と呼ばれる編組技術と漆工技術とを高度に組み合わせた漆製品など、保存状態の良好な優品が出土している。装飾を施した漆塗りの飾り弓や白木の弓、結歯式豎櫛など、これらの製品はいずれも高度な工芸技術により製作されたものであり、北陸の縄文時代後・晩期の生活様相を知る上で欠かせない貴重な出土品といえる。

以上、縄文時代後・晩期の代表的な遺物が良好にそろっていること、木製品や漆塗製品が全国的にも質・量共に高い評価を受けていることから、金沢市指定文化財としての価値を十分に有すると認められる。

佐藤委員長

市街地域で縄文時代の物が出土されている例は、ほかにはあまりないの

出越文化財保護
課長

でしょうか。

市街地における縄文時代の遺跡の例でしょうか。遺跡そのものに関しては、市内では新保本町のチカモリ遺跡が遺跡として正規に指定されています。出土品では、縄文時代に関してはトータルでは本遺跡が最初になると思います。

議案第 36 号 金沢市卯辰山麓伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について（歴史建造物整備課）

（説明の概要）12月19日に金沢市伝統的建造物保存地区保存審議会を開催し、答申を行った。

変更の内訳は伝統的建造物（建築物）1棟の追加である。これにより建築物の伝統的建造物の指定棟は計224棟となる。合わせて工作物は既に45件、環境物件13件が特定されている。

これについては、既に実施していた保存対策調査の伝統的建造物群保護の位置付けがされていたが、所有者の方から特定の同意を得られ、保存計画に追加することとなった。

（特になし）

報告第 21 号 平成 23 年度学力・学習状況調査の結果概要について（学校指導課）

（説明の概要）調査目的は、子どもたちの学力・学習状況を把握し、その結果を教育委員会の施策等に生かし、各学校で今後の指導改善に役立てることである。例年4月下旬に実施するが、今年度は東日本大震災の関係で延期され9月30日に実施した。調査の対象学年は小学6年生、中学3年生である。

調査内容は、教科に関するものと生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の2通りの調査となっている。

教科に関しては、小学校は国語A、B、算数A、Bの4種類、中学校は国語A、B、数学A、Bの4種類で調査を実施した。Aは主として知識に関する問題、Bは主として活用に関する問題（自分の考えや意見を書くなど）である。今年度の各教科の正答率は、国語、算数共にAとBに30ポイント以上の差があり、Bに関する課題に今後力を入れていく必要がある。

質問紙調査の概要については、資料では6項目について掲載し、平成19年度から23年度までの数値の推移を見られるように並べている。ただし平成23年度はこれまでの調査実施時期と異なるため、単純に比較して見ることのできない項目もあり、配慮が必要である。

ただし学校質問紙調査の結果については、学校の指導法にかかわるもののため、実施時期に影響しないと見ている。今年度の結果では「算数と数学の指導として、計算問題の反復練習をする授業を行った」が昨年度に比べ、今年度は5%も落ちており、われわれとしては、週末の授業では理解の定着を図る練習問題をしっかりとするという指導を、これからも重ねていかななくてはならないと考えている。

なお今回の調査結果については、学校指導課で詳しい報告書を作成中である。また各学校においては、それぞれの結果を踏まえ、12月から来年3月までの学力向上の具体的な取り組みの計画を立て、現在実践中である。4月以降の学力向上策についても各学校で計画を立て、来年度に備えている。

早川委員

資料10ページの「6.各教科の平均正答率」では、AとBで30ポイント以上の差があるという説明でした。この点については、去年もそうだし、一昨年もそうでしたね。そうなるとずっと30ポイント以上の差は小さくならないのですか。

野村学校指導課長

例年AとBではAの方が正答率が高くなっているという状況です。ただ、問題の内容が例年変わります。昨年度で言えば国語Bも大変いい結果が出

ており、30ポイント以上の差はありませんでした。ただ、今回は国語Bの問題も私たちから見ても難しくなった内容になっており、その結果、平均正答率は昨年度と比べて随分落ちているという結果が出ております。

早川委員

先ほど、「この結果を踏まえてこれから3月までに何か対策を立てる」とおっしゃっていました。各学校でどんなことを強調しながら授業を進めていき、何かを説明したり、自分の考えをまとめたりする能力が上がっていくと決められたのでしょうか。

野村学校指導課長

各学校が12月から3月までに具体的にどんな取り組みをするのか、4月以降どんなことに力を入れて学力向上を図っていくかという報告書を、つい先日各学校から提出していただいてまとめました。

12月から3月に向けて、また4月以降の取り組みに対して、私たちの方でぜひ学校に留意してほしいということで指導した点として、取り組み自体が具体的であることをまずお願いしています。例えばある学校では、算数で文章問題を解く機会を多く取り入れ、式の立て方や答えを導き出した過程を説明する場面を設けています。それから、ショートタイムの時間で苦手な単元の補習を丁寧に行うといった取り組みをしています。

それから算数の記述式問題での無回答率が高かった学校では、自分の考えを持つ場面やまとめの場面で書く活動を必ず取り入れました。そしてキーワードを使って、自分の言葉でまとめるという活動を授業の中に取り入れるようにしています。

そういったことで、各学校の状況に応じて、それぞれが今取り組みを始めているととらえていただければ大変ありがたく思います。

早川委員

私の解釈はもしかしたら間違っているかもしれませんが、お聞きください。子どもたちは自分の考えを述べようとするとき、ほかの人がどう思っているのか非常に気にします。例えば先生が「あなたはどう思うのか」「あなたは昨日何をしていたの」というように質問しているのに、答える前に隣の人に聞く傾向があるのです。小学校で教えたことはないのですが、中学生、高校生、大学生に英語の授業をしている時、「あなたはどう思っているのか」とか「お昼に何を食べたの」などと質問すると、隣の人を知っているわけがないのに相談する傾向があるのです。

もしかしたら、一つは非常に恥ずかしがり屋だからで、もう一つは隣の人やほかの人と自分の意見が違っていると何か言われるのではないかととても気にしているようです。このような傾向も自分の考えをまとめにくくしている一つの原因ではないかと思っています。

ではどうやって解決するのでしょうか。大学生には「あなたに聞いているのに、なぜ隣の人に聞いているのか」と尋ねてみることにしています。小学校から少しずつこのような態度が身に付いてしまっているようで、心配です。

野村学校指導課長

早川委員が指摘されたことは、小学校ですと学級経営をしていく上で、ぜひ担任としては留意しなければいけないことだと思っています。例えばクラスの中である子が発言した際に誰も聞こうとしなかったり、またはその反対意見を期待するような言葉が出てきたりする学級の雰囲気ですと、それぞれの持っている良さが出てきません。ですので、どのような意見であってもしっかりと共感して聞いて、その意見を基にさらに自分の考えを発展させていくという形で、誰もが自由にものを言うことのできる学級づくりが、まず前提としてなくてはならないと考えております。

また、それを基盤にして、自分の考えをしっかりと各教科の中で持てるような指導をしていかななくてはならないと思っています。課題について自分の考えを書かせるという案も見ますが、もう少し工夫しないと、B

の活用の問題にはなかなかいい結果が出ないと思います。例えば幾つか条件を与えながら書かせてみるなど、いろいろ工夫しないと、少し手こずっていくという感じを持っています。そのあたりはまた考えていきたいと思っております。

佐藤委員長

10 ページの表で少し気に掛かったのですが、金沢市と石川県のデータを見比べたときに、中学校も小学校も、国語は県の平均よりは若干上回っていますが、算数・数学はいずれも若干劣っています。これは今年だけなのか、それともこういう傾向があるのか。あるとすれば、なぜ国語と算数ではそういう差が出ているのでしょうか。どのように分析しておられるのかをお聞きしたいです。

野村学校指導課長

平成 19 年度から昨年度 22 年度までの傾向で見ますと、金沢市の全数の平均は、これまで国の平均を下回ったことはまずありませんでした。県と比べて見ることができるときでも、やはり県の平均を下回ってはなかったと聞いております。ただ、今回は参考ということで県の数値を一番下に載せていただきました。今回実施時期が 9 月ということで、金沢市の採点方法、採点者と県の方での採点者が違っており、少し誤差が見られることも幾つかありましたので、今回につきましては参考ということで書かせていただいています。

佐藤委員長

採点者は国語の場合も同じだろうと思いますが、今年だけの傾向であればいいと思います。なぜ国語と算数での差があるのかということは少し気に掛かるので、今後またその辺も注意して見ていただき、どうも金沢は算数が弱いと言われることにならないように、ひとつよろしく願います。

報告第 22 号 金沢市立中学校「金沢スタンダード・ベーシックカリキュラム」について（学校指導課）

（説明の概要）4 月から新学習指導要領が中学校で完全実施となるため、金沢スタンダード・ベーシックカリキュラムは、新学習指導要領及び今年度採択された中学校教科書に対応した金沢市独自のカリキュラムの骨子である。このカリキュラムに各学校独自のスタンダード等を織り込むなどして、それぞれの学校の実情に応じた特色ある教育課程を編成し、4 月から実施していく。策定した教科は 9 教科あり、内容としては 単元の目標、 1 時限又は一定時間ごとの目標及び主な学習内容、 1 時間又は一定時間ごとの評価基準例、 指導時数例、 指導時期（月）例となっている。

具体的に資料を説明すると、最初に第 1 章などで学習概要を示し、何月にどのような目標で、どのような学習内容をどれくらいの時間をかけて実施していくかについて、下の表でまとめている。主な学習内容の欄にゴシックで「金」に丸印の付いたものは金沢スタンダードを表しており、「重」に丸印の付いたものは、子どもたちの学習内容の定着が不十分で、重点的に指導する内容であることを示している。「発」に丸印は、子どもたちの学習内容の定着状況が良好で、理解を伸ばすことが期待できるため、学習指導要領を超えた発展的な内容であることを示している。表の「特色ある学習内容」は空欄となっているが、各学校で重点的に指導する内容等を作って教育課程が仕上がっていくという形を考えているためである。

このカリキュラムについては、今月中に各学校にデータで配信し、先生方に一度見ていただき、加筆修正等を加えながら来年 2 月には冊子として各学校に配布していきたいと考えている。

佐藤委員長

先生方個人にとっては、こういうものができていると非常に授業構成が作りやすくなると思うのですが、実際に学校では、ここで出されたカリキュラムの計画に大体従って進められているのでしょうか。実態はどのような

でしょうか。

野村学校指導課長

スタンダード・ベーシックカリキュラムで示した資料の中に、評価基準例ということで書いてありますが、それぞれの内容でどの程度まで子どもたちの姿を求めるかといった中身、それぞれの内容にどのくらいの時間をかけて指導するか、また指導時期を入れ替えることなども考えられます。ですので、今申し上げた評価基準例や指導時数、指導時期などは委員会として原則としてお示ししたもので、それぞれの学校に応じて、変更可能なものが幾つかあります。これらにつきましては、各学校が学校の様子等を見て、決めて作っていくことになります。

ただ全体としては、この大きな流れはあまり変わらないだろうと見ております。各学校においては、作った教育課程を年度当初に教育委員会へ提出していただくことになっています。また、その提出したものについて、学校指導課の方では点検させていただいています。

その他(1) 中学生会議について

(説明の概要)今年度は、東日本大震災の被災地である気仙沼市から中学生を招き、金沢市の中学代表の子どもたちと意見交換やグループ協議を通し、大震災を踏まえてこれから大切にしなければならないことは何かということを考える。そういった活動を通すことで、金沢市内の今後の生徒会活動が充実したものとなり、金沢「絆」教育の推進に資するものになるだろうと、今回実施させていただく。

12月26日(月)午前9時から教育プラザ富樫で開催し、気仙沼の津谷中学校、大谷中学校の生徒たちに、震災前と震災後の活動で何が変わったかをお話ししていただくと考えている。その発表を聞いて、今回市長にエールを送っていただく場も設けていきたい。また、金沢市からも気仙沼の子どもたちへ応援旗も贈呈したいと考えている。

米井委員

金沢からは、各中学から代表が1名ずつ参加するのですよね。これが終わった後、代表で来られた子たちは学校に戻って何か協議する機会があるのか、またその前に何か準備をしてくるのか、その辺のことを教えていただけますか。

野村学校指導課長

金沢市の中学から参加する生徒は市内で24校、代表1名ずつ、引率の先生と一緒に参加することになっています。グループ協議では、これから大切にしなければならないことは何かをグループごとに話し合うのですが、できればグループごとに発表していただき、金沢市全体の一つのこれからのメッセージができればと思います。そして今回の話し合いを受けて、各学校に生徒代表が帰りましたら、話し合われたことを伝えながら、それぞれの学校のこれからの生徒会活動の中でぜひ生かして欲しいと考えております。来年には「絆」活動の日もありますので、その中にもそういった取り組みが表れてくればと期待しております。

佐藤委員長

大変良い企画ではないかと思えます。金沢市の生徒たちにとっても、実際に被災された中学生の生の声を通していろいろな実情や思いを聞く機会を持つことは、非常にいいことではないかと思えます。今もありましたが、ぜひこの結果を何らかの形なるべく金沢市の学校の皆さんに伝わるような工夫をしていただければ、より有効かと思えます。

早川委員

この催しは、例えば代表を出した中学校からほかの生徒たちも参加し話を聞くような会議なのでしょうか。それとも非常にクローズドで、参加者だけが話し合っ、その結果を学校へ持ち帰ってみんなに発表するのでしょうか。

野村学校指導課長

基本的には、その会に参加して一緒にグループ討議ができるのは、各学校から出席する1名の方となりますが、ひょっとしたら関心があって一緒に聞きに来る生徒もいらっしゃるかもしれません。ただ、今回気仙沼から発表していただく内容につきましては、各学校に持ち帰って、このような話があったと映像を交えて学校の中に広まるようなことも併せてやっていきたいと考えています。ですから、直接金沢に来られなくても、ここでの発表の内容は各学校のほかの生徒も聞くことができるチャンスをどこかで作れるようにしてあげたいと思っております。

米井委員

ビデオか何かでちゃんと記録して、結果的に配布できるような形にしたいということですか。

野村学校指導課長

はい。

佐藤委員長

非常にいい企画ですので、金沢市の生徒みんなになるべく多く伝わるような工夫をしていただければと思います。よろしく願います。

その他(2) 平成23年度金沢市小中学校合同展について

(説明の概要) 平成24年1月4日から15日までの12日間、場所は金沢21世紀美術館で行う。子どもたちの作品が市民ギャラリーA、Bに並べられるので、時間があればぜひお越しいただきたい。

(特になし)

その他(3) 平成23年度金沢市立工業高等学校卒業予定者の進路状況について

(説明の概要) 卒業予定者は231名で、就職を希望している生徒は135名、進学を希望している生徒は96名である。就職・進学を希望する生徒はここ数年ほぼ半数で推移していたが、今年度は就職を希望する生徒が昨年に比べて13名増えている。就職を希望する生徒のうち、既に就職が内定している生徒は130名で、内定率は96.3%となっている。希望者は増えたが、内定率は例年と同じである。また進学も順調で、現在79名の合格通知をもらっている。今後も生徒の希望する進路に進めるよう、学校全体で取り組んでいきたい。

佐藤委員長

ただ今のご説明では、就職希望者が今までは半々だったのが今年は10%近く増え、逆に進学者が減ったようですが、その背景などは何か分析してこられたのでしょうか。

奥村市立工業高校
事務局長

最近の傾向として景気が悪く、雇用率が悪いことが新聞等マスコミで報道されていることが影響しており、進学すると自分で就職先を見付けなければいけない、就職口が非常に少ないといった傾向があり、就職を希望する生徒が増えていると分析しております。

以 上

会議録署名

教育委員長 _____ 署名

教育委員 _____ 署名

(米井委員)

[非公開議案の審議結果について]

議案第 37 号 金沢市文化財保護審議会の諮問について（文化財保護課）

審議結果についても、非公開

議案第 38 号 金沢市スポーツ推進審議会委員の委嘱について（市民スポーツ課）

金沢市スポーツ推進審議会条例第 4 条の規定により、下記のとおり金沢市スポーツ推進審議会委員を委嘱します。

1 委員の委嘱

区 分	氏 名	所属団体等
知識経験を 有する者	佐川 哲也	金沢大学人間社会学域地域創造学類 教授
	金浦 修郎	金沢市体育協会 理事長
	安宅 真由美	石川県女性スポーツ協会 金沢支部長
	奥田 睦子	石川県障害者スポーツ協会 理事
	高田 和英	金沢市中学校体育連盟 会長
	松本 亮	石川県小学校体育研究会 会長
	前川 明美	金沢市スポーツ推進委員協議会 副会長
関係地域を 代表する者	榊野 茂	金沢市公民館体育部長協議会 副会長
	中島 竜彦	公募委員
	竹下 知子	公募委員

2 任 期

委嘱の日から平成 25 年 4 月 30 日まで

3 理 由

スポーツ振興法の全部改正（平成 23 年 6 月 24 日公布、同年 8 月 24 日施行）に伴い、改正後のスポーツ基本法に基づき、地方スポーツ推進計画その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議させるための機関として、スポーツ振興審議会に代えて、新たにスポーツ推進審議会を設置するもの。

以 上